

世界遺産アカデミー認定講師 File No.39

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第39回目は、定年退職後、入間市「まちの先生」として、また、旅行ガイドとして、第2の“世界遺産”人生を楽しまれていらっしゃる賛助会員の坂田 浩(さかた・ひろし)さんです。今回は、坂田さんに、世界遺産への共感的想いととも、認定講師としてのこれからについて、語っていただきました。

——「平和の砦」と「多様性」としての世界遺産

世界遺産の魅力を意識始めたのは、毎週日曜深夜に放映されていたTBSテレビの番組「世界遺産」でした。饒舌なナレーションを排した演出で、美を凝縮した映像が私の心に訴えかけてきました。ある時、池袋のジュンク堂書店ですれ違った人が手にしていた世界遺産検定のパンフレットに目が留まって、自分も持ち帰りました。そうして世界遺産アカデミーのことを知り、2級のガイダンスに参加。目黒WHA(当時)研究員の教室講座とWeb講座で勉強を始めました。私は資格マニアで、行政書士、中小企業診断士、社会保険労務士、ファイナンシャルプランナーの資格も持っています。検定や資格試験を短期間かつ楽に合格できる学習方法を体験的に知っているので、ポ

イントを押さえた講義ができれば、と思っています。在職中の2016年に1級、2017年にマイスターに合格しました。

ユネスコの設立理念に「教育や文化の振興により、心に平和の砦を築く」とあり、世界遺産にも「平和への願い」が込められています。世界遺産の最大の存在価値は、人類が築いた文化や地球が創造した自然に秘められた、「多様性」です。それぞれの自然や文化の間に違いはあっても優劣はない。そうした意識を育てることが、結果として平和の砦を築くことに繋がる、という想いに共感しました。何度も焼失を繰り返しながら再建されてきた京都や、首里城、原爆ドームといったモニュメントが辿ってきた軌跡に、世界遺産が時代を超えて輝く可能性を見出せるのではないのでしょうか。オーバー・ツーリズムを招くマイナス要素も承知した上で、地球旅行へ誘うプラスの側面に注



歴史とロマンあふれるヴェネツィア

目していきたいです。

2020年のお正月にヴェネツィアを家族4人で訪れました。年末にジュネーブ経由でミラノから入国したのですが、既に新型コロナウイルス感染が始まっていたと後から聞きました。イタリア政府が国の威信と総額7,000億円をかけた「モーゼ・プロジェクト」も進めていますが、地盤沈下



悲劇的な火災に見舞われたノートルダム大聖堂

よる水没、観光被害など様々な危機に見舞われています。とはいえ、実際にこの目で見たヴェネツィアは「アドリア海の女王」の異名にふさわしく、とりわけ「ドゥカーレ宮殿」は、煌びやかな装飾・調度品の数々、ヴェネツィア派画家ティントレットが

描いた「天国」など、圧巻でした。ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ヴァチカンを巡るイタリア周遊旅行でしたが、素晴らしいヴェネツィアの姿がもう観られなくなるかもしれないと思うと、ひととき貴重な時間を過ごせたと感じます。

また、昨年2019年は、ふたつの世界遺産に悲劇的な火災が発生しました。写真はGWに訪れたパリの「ノートルダム大聖堂」です。今年2020年1月には首里城も訪れ、悲惨な状況に愕然としました。地元ガイドの方のお話では、首里城の管理が2019年2月に日本政府から沖縄県に移行し地元が意気込んでいた矢先に、火災が起こってしまったそうです。「何年かけても、直すしかありません」そう繰り返された言葉は、私の心に痛く突き刺さりました。復興の過程を見守っていきたくと思います。

りツアー」を担当したり、「屋久島ツアー」では縄文杉からの復路で世界遺産クイズをしたりしました。これからの理想として、事前講座を設けて予備知識を持っていただいてから、現地の世界遺産をご案内する、といったコースを開催したいと思っています。また、昨年11月、「武家の古都・鎌倉」の世界遺産推薦活動休止が発表されました。高校時代を鎌倉で過ごした私にとって、その価値や歴史、先人達の想いが正当に守られていくのが気がかりです。2022年のNHK大河ドラマは鎌倉幕府誕生を背景に描かれますので、その波に乗って、ふたたび世界遺産登録に向けた活動が高まればと期待しています。

世界遺産には「予備知識がなくても楽しさを体感できるものと、背景理解なしには価値が分からないものがある」という事実を知らないと、せっかく訪れても「がっかり世界遺産」になってしまいます。たとえば、「石見銀山遺跡とその文化的景観」を堪能するには、16世紀の世界の貨幣流通の背景を知った

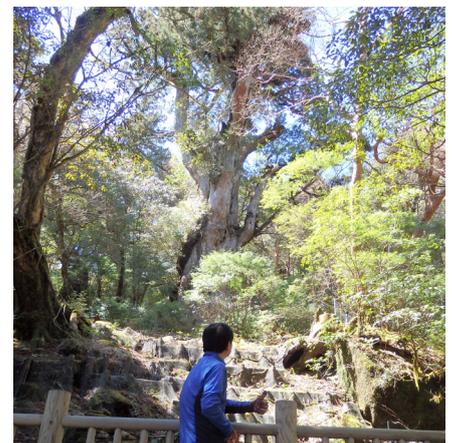
上で、銀山、街並み、街道、港という一連の資産を全体像として見る必要があります。また、その国の成り立ちや特質が世界遺産に表れているケースもあります。オランダでは、10件の世界遺産のうち、8件が「水に関わる世界遺産」です。国土の4分の1が海面下の土地であるオランダの近代は、「低地の水を掻き出し、埋め立てて土地を生み出すことに腐心した400年」と言っても良いでしょう。オランダには、「大地は神が創り賜うたが、オランダはオランダ人が造った」という言葉があります。そのことを理解しているか知らないかでは、干拓地や風車を観ても、感動や深みが異なってきます。

「顕著な普遍的価値」は、抽象的で分かりにくいものです。その場に立って感じる圧倒的な感動、理解を超えたエモーショナルな情動が、やはり大切です。だから、現地に行く価値があるのです。平和への願いとともに、自分の五感で体感することの大切さを伝えられる講義を努めていきたいです。全人類の

——全人類の歴史、叡智を未来へと

私が暮らす埼玉県入間(いるま)市の生涯学習の一環として、「まちの先生」制度というものがありません。地域の人材を活用することで「生涯学習の成果を活かせる街づくり」を目指して発足し、今年で9年目を迎えます。私は昨年登録し、「生涯学習フェスティバル」で講座の紹介ブースを出展しました。同じく埼玉県在住の認定講師・関口和信(せきぐち・かずのぶ)さんと協働です。世界遺産検定ガイダンスの他、いずれはシリーズもの世界遺産講座の実施を考えています。今年から講座回数が10回までと増えましたし、複数の先生による講座も可能となりましたので、近隣の講師の方の支援もいただけたらと願っています。加えて、旅行会社のガイドも始めました。料理を結びつけた日帰りの「世界の食卓めぐ

歴史と叡智を未来に繋げる活動のお手伝いができたらと思っています。



神秘的パワーを放つ縄文杉